

発行日 2013年5月13日
発行責任者 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本
〒105-0003 東京都港区西新橋2-22-1
西新橋2丁目森ビル7階
TEL.03-6809-2034 FAX.03-3436-3666
<http://www.son.or.jp>

vol.
27

**Special
Olympics**
Nippon



Rainbow

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 NEWS

スペシャルオリンピックス(SO)とは 知的障害のある人たちに、日常的なスポーツトレーニングと成果の発表の場である競技会を年間を通して提供し社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。



2013年 スペシャルオリンピックス 冬季世界大会 ピョンチャン





2013年 スペシャルオリンピックス 冬季世界大会・ピョンチャン

2013年1月29日～2月5日



大会概要

大会名称 2013年 第10回
スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ピョンチャン
英文:Special Olympics World Winter Games PyeongChang 2013

開催地 大韓民国 ピョンチャン(平昌)、カンヌン(江陵)

開催時期 2013年1月29日～2月5日

参加者 アスリート……………111カ国・地域より3,000人以上
ボランティア……………7,800人

日本選手団 団長/有森 裕子(スペシャルオリンピックス日本 理事長)
副団長/大和田 誠(スペシャルオリンピックス日本 理事)
アスリート/59人
コーチ・役員/25人

開閉会式 Yongpyong Dome

実施競技 7公式競技を55種目実施/日本選手団としては7競技に派遣
・アルペンスキー ・スノーボード ・クロスカントリースキー
・スノーシューイング ・ショートトラックスピードスケート
・フィギュアスケート ・フロアホッケー

日本選手団競技結果

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	参加賞	DQ/ME
アルペンスキー	5	9	6	9	4	5	1	1	3	
クロスカントリースキー		2	1	1						
スノーボード		3	1					1		
スノーシューイング	3	1	4	3	3	5	1			4
フィギュアスケート	2		1	2						
ショートトラックスピードスケート	3	4	4	5	2	1				
フロアホッケー	1									
合計	14	19	17	20	9	11	2	2	3	4

※ 団体競技/種目はメダル1つとして集計 ※ DQ/MEは失格/マキシマムエフォート
※ 競技結果URL:http://www.specialolympics.org/Games/2013_World_Winter_Games.aspx

スペシャルオリンピックス日本 日本選手団 団長 有森裕子 (SON理事長)

前回大会に引き続き日本選手団団長として参加し、アスリートとの共同生活で彼らの目標に向かってチャレンジする姿勢や競技への熱い想いを強く感じました。世界の舞台でアスリートたちは一人ひとり真剣に競技と向き合い、それぞれが素晴らしい成績を収めることができましたが、これは日々の練習、コーチの熱心な指導、ファミリーの支え、そして皆さんの応援で、アスリートたちのチャレンジする精神が養われた結果だと思えます。

今後もこのスペシャルオリンピックスがアスリートたちにとって新たなステップへ進む機会となるよう、そして、スポーツだけでなく様々な現場でも活躍できるよう、彼らの自立を応援する活動でありたいと思えます。

そして近い将来、世界大会で感じるスペシャルオリンピックスムーブメントが日本中に広がるよう、アスリートたちの生み出す感動と喜びが体験できる機会を作っていきたいと思えます。



アルペンスキー

会場:Yongpyong Resort
日本選手団参加アスリート数:15名

参加アスリート感想

毛利 優樹 (SON・富山)

ぼくは、今回の世界大会が初出場でした。3種目に出場して回転(スラローム)で銀メダルを取れて、とても嬉しかったです。大回転(ジャイアントスラローム)とスーパー大回転は、ぼくの目指していた結果にとどかず悔しかったです。世界のアスリートは、とても速かったです。いろいろなアスリートを見て、たくさん勉強になりました。ぼくもあんなふうにもっともっと上手になりたいです。

また機会があれば、世界大会に参加したいです。

競技総括

大黒 伸一ヘッドコーチ

世界大会の目標は2つありました。ひとつは、「気持ちの通じ合い～生活～」。お互いの気持ちの通じ合いをモットーに、コーチ同、真剣に相手の想いを聞いたり接することを心がけました。韓国ではアスリートから声かけてもらい、とても嬉しく「ヤッター」とコーチ同バンザイ!もうひとつは、「全力で滑り切る～スキー～」。合宿では世界大会を意識し、1本1本を大事に滑ること、結果はゴールしたら付いてくることを伝え、大会では見事に参加者全員が笑顔でゴールし、目標が達成できたと思えます。



スノーボード 会場:Alpensia Resort 日本選手団参加アスリート数:2名

参加アスリート感想

竹野 亮輔 (SON・福岡)

スペシャルオリンピックスに入って5年になって、初めて世界大会に出場しました。今回出場してメダルを取れたし、楽しく滑れたし、良い思い出になりました。

この世界大会でいろんな国の人やボランティアの方とバッチを交換したり、写真を撮ったりして楽しく交流ができて良かったです。ボランティアの方たちと、とても仲良くなりました。また、4年後の世界大会に出られるように頑張ります。

競技総括

沖 大介ヘッドコーチ

スノーボードは総勢3名の小さな選手団。小さな選手団とはいえ、思い通りの結果を出せないのがSOです。皆、辛い経験も楽しい経験もしっかりと積むことができました。大会中、アスリートたちは体調不良と成績不振に苦しみながらも、それらを乗り越えてメダルを獲得しました。この時のアスリートの笑顔は忘れることができません。また、韓国の人達との交流も十分楽しむことができ、人間的にも競技者的にも成長してくれました。この経験は世界大会でないとできません。大会参加にあたり、ご支援くださったすべての方に感謝いたします。



クロスカンリースキー 会場:Alpensia Resort 日本選手団参加アスリート数:2名

参加アスリート感想

須藤 拓哉 (SON・福島)

フリーの7.5kmと10kmに出場しました。谷口コーチに、3種類のテクニクを教えていただき、そのうちの1つ、「クイックスケーティング」だけで滑りました。競技中は転んでしまい、あとからスタートした人に抜かされ、それで悔しくて泣いてしまいました。

4年後の大会に出場できるよう、「ラビット」と「スピード」のスケーティング練習も頑張りたいです。それと、今度はリレー種目に出てみたいと思っています。

競技総括

谷口 博文ヘッドコーチ

～メダル獲得に向けて「できる条件づくり」を整える～ 世界大会の目標に向けて、アスリートとご家族に対して、今現在のアスリートの技術、体力、大会への思いなど、じっくりと話し合うことから始め、我が子は「可能性を実現できる子」として見るようお願いをしました。その結果、保護者は驚くほど子どもを信じ、ご協力くださいました。もちろん、目標達成でした。多くの方々のご支援ご協力に感謝しています。ありがとうございました。



スノーシューイング

会場:Alpensia Resort
日本選手団参加アスリート数:12名

参加アスリート感想

平山 めぐみ (SON・熊本)

私はスノーシューイングで世界大会に出場した。陸上では50mの練習をしていたけど、スノーシューイングは100mと200mに出ることになった。最後まで走れるかとても不安だったけど、挑戦しようと思った。合宿で練習をして、少しずつ走れるようになった。「めぐみ、がんばれ!」とお母さんの大きな声やコーチやお友達の声が聞こえた。応援があったので私は頑張って力いっぱい走ることができた。表彰式でメダルをもらったときは嬉しかった。私はこれからもみんなに支えられて挑戦していきたい。

競技総括

日吉 基晶 ヘッドコーチ

個性豊かな12名のアスリートと計4回の合宿を通じて、スノーシューイングチームには家族のような絆が生まれ、チーム一丸となって大会に臨めました。特にチーム力が発揮される「4×100m」のリレーについては、2チームがメダルをとり、また、他の種目でも立派な成績を収めることができました。それは、アスリートが大会までの過程で一生懸命練習し、精一杯力を発揮できたからだと思います。今回の世界大会はアスリートにとって計り知れない貴重な経験になったと思います。世界大会参加にあたっては多くの方々の支援に感謝します。



ショートトラックスピードスケート

会場:Gangneung Ice Rink
日本選手団参加アスリート数:7名

参加アスリート感想

長坂 晃一 (SON・山梨)

500m決勝:ゴールまであと30mのところまで1位でしたが、ハンガリーの選手が内側から追いかけて倒れ、それに巻き込まれてしまいました。後を走っていた2人の選手が先にゴールして、僕は4位でした。くやしくて泣きましたが、閉会式の時にそのハンガリーの選手とピンバッチ交換をしました。とてもいい方でした。1000m決勝:4位でしたが、自己ベストを3秒以上上ちめることができました。とても満足です。世界にはずっと速い選手がいて、特に韓国とカナダの選手は凄いと思いました。

競技総括

福田 耕太郎 ヘッドコーチ

合同合宿から始まり本大会の期間中も成長を見せてくれたアスリート達。初めて長期に渡りファミリーから離れての生活によるホームシックや、個人競技というプレッシャーに押し潰されそうになりながらも結果を残して満面の笑顔。メダルを取れない悔しさに涙したアスリート。いろいろな経験を重ねてアスリートが成長するのを実感でき、その感動に涙を見せたコーチ。みんなの頑張りど笑顔に金メダルを贈りたいと思います。世界大会参加にあたり、多くの方々に支えていただき、ありがとうございました。



フィギュアスケート

会場:Gangneung Ice Rink / Yongpyong Dome
日本選手団参加アスリート数:5名

参加アスリート感想

室田 花菜 (SON・兵庫)

目標の「2連覇達成」は、残念ながらできませんでした。(＞へ<);

パニーホップが1回目も失敗したので、心が折れてしまいました。4位入賞出来て、よかったですと思いました。((+ _+)) 20代最後の世界大会だからです。

あと、もうひとつ良かったことは、IDカードのネックストラップに世界のアスリートと交換したピンバッジが、いっぱいになったことです。(* ^ _ ^ *)

競技総括

日向野 美峯 ヘッドコーチ

フィギュアスケートは、タイムのような目に見える顕著な変化がない分、“自分への挑戦”という部分が大きい競技だと思います。目標通りメダルを獲得できたアスリート、転倒してしまったにもかかわらず「悔いはありません」と言い切ったアスリート。競技を通じて、皆ひと回りも、ふた回りも成長することができました。120%の力を出し切った彼らを誇りに思わずにはいられません。みんな本当によく頑張りました！コーチとしても大変貴重な経験をする事ができ、心から感謝しています。



フロアホッケー

会場:Kwandong University / Gangneung Sports Center / Gymnasium of Kwandong
日本選手団参加アスリート数:16名

参加アスリート感想

峯廻 栄志 (SON・徳島)

一言で言うと楽しかったです。嬉しかったです。試合とか合宿とか大会中の食事とか他愛のない会話とか、現地の人とのコミュニケーションとか全部ひっくるめて楽しかったですし、嬉しかったです!!これだけははっきり断言します。大会中辛いことなんてありませんでした。負けた試合、大変だった試合も当然金メダルを取れたことも、全部ひっくるめて楽しかったですし、嬉しかったです!

競技総括

渡邊 務 ヘッドコーチ

我々は、全員フロアホッケーを実践し金メダルを掴み取る事ができました。応援して下さった皆さんに心から感謝申し上げます。大会関係者からも我々の自然に湧き出るフェアプレーを大変評価していただきました。日本のサッカーが世界で評価されているのもフェアプレーであるからだと思います。つまりフェアプレーが日本のお家芸。胸を張ってそれを実践できました。とにかく、あっという間の12日間で少々疲れましたがこのメンバーでまた参加したいです。



大会期間中のイベント

ホストタウン
プログラム

ホストタウンプログラムは各国から集まる選手団が、時差と環境の変化に慣れることを目的として実施されています。今回は1月26日～29日に行われ、日本選手団は高麗大学に滞在し、異文化交流としてソウル市内の民俗村(テーマパーク)にて韓国の伝統芸能や歴史を学びました。

ヘルシー・アスリート®・
プログラム

ヘルシー・アスリート®・プログラムは、アスリートがトレーニングや競技をする能力を高めること、そして生活の質を向上することを目指しています。大会期間中の1月30日～2月4日に6部門(筋力・柔軟性改善、視力、聴力、口腔、足、栄養・生活習慣)の健康チェックが行われました。

在大韓民国
日本国大使館

在大韓民国日本国大使館のサポートにより、大会期間中、日本選手団をはじめ、ファミリーや応援団など韓国に滞在した方々が安全に行動することができました。

日本選手団
チームドクター

重本 弘文先生
井上 誠一先生
寺倉 宏嗣先生

日本選手団が万全の体調で競技に臨めるよう、3名のドクターに大会期間中の健康チェックやアドバイスをいただきました。天候が厳しい中での競技生活のため、アスリートの体調管理がとても難しかったのですが、迅速にケアしていただき、アスリートたちは競技に安心して取り組むことができました。

大会を支えてくださった方々

ヘルシー・アスリート®・
プログラム・
クリニカルディレクター

高橋 久雄先生
高尾 文子先生
井上 由里先生

ヘルシー・アスリート®・プログラムにはSOI承認クリニカルディレクターの高橋久雄さん(口腔部門)、高尾文子さん(栄養・生活習慣)、井上由里さん(筋力・柔軟性改善)が参加し、世界のアスリートの健康チェックを行いました。

公式審判

スノーシューイング
根津 良伸さん
フロアホッケー
宮澤 忠雄さん
田所 健作さん
大池 千歳さん

今回の世界大会では、日本から2競技(スノーシューイング、フロアホッケー)4名の方に公式審判として参加いただき、各競技の進行を円滑に進めていただきました。

日本選手団
アドバイザー

村上 智則さん
(SONスポーツプログラム委員長)

日本選手団がより良いチームとして行動できるよう、ご自身のSO活動経験を活かしてサポートくださいました。また今後、日本国内で展開されていないヤングアスリートプログラム等の視察にもご協力いただきました。



大会を応援してくださったサポーター

スペシャルオリンピックス日本
ドリームサポーター

森理世さんが2011年スペシャルオリンピックス
夏季世界大会・アテネに引き続き、
現地に駆けつけ選手団を応援して下さいました。

森 理世さん

2007年ミスユニバース世界大会優勝

みなさんこんにちは。森 理世です。

今回、私は2011年SO夏季世界大会・アテネに引き続き、スペシャルオリンピックスのオールスターファン、そしてスペシャルオリンピックス日本のドリームサポーターとして、2013年SO冬季世界大会の応援にピョンチャンへ行かせていただくことができ、とても光栄でした。

韓国ピョンチャンといえば2018年冬季オリンピックの開催が決定している場所。

そして、何と言っても私にとって2回目の世界大会!

前回よりもほんの少し状況を把握しているつもりでしたので、ワクワク感が増していました。世界大会が開催された韓国のピョンチャンへ現地入りした瞬間から、ピリッとした空気に緊張感も味わいましたけれど…。

世界各国から集まったアスリート達、コーチ陣、ファミリー、ボランティア! 国際交流の香りが漂い、スポーツが世界を繋いでいる感覚を直接感じることのできる、世界大会独特の雰囲気が懐かし

かったです。

今回は111の国と地域から3,000名以上のアスリートが出場し、なんと7,800名のボランティアの方々が大会を支えて下さいました! そして、我が日本選手団は84名が出場!

84名を支えてくださった日本のサポーターもたくさんのお応援をくださいました。そして、慣れない環境の中でその応援を受け、チームJAPANはたくさん活躍してくれました! チームJAPANのアスリート達はその一瞬、その瞬間にかける闘志で真剣にゲームに挑んでいる姿は、毎回感動を与えてくれます。メダルの色だけではなく、海外チームや海外アスリートとのゲームを終えたアスリート達に残るのは、メダル以上に心をカラフルにしてくれる様な経験だったのではないのでしょうか?

前回のアテネの時にも思いましたが、多くのボランティアの方々は様々な局面で進んでサポートして輪をつないでくださいました。私は、アスリート、コーチ、サポーター、ファミリー、そして参加したすべてのボランティアの方々が一つの輪となることのできる、このスペシャルオリンピックスを日本の皆さんにより深く知っていただき、更にはこの世界大会を日本で開催できたらどんなにワクワクするだろうと考えています。

これからもアスリートには悔しさや喜びを明日への力に変えて、突き進んでいって欲しいです!

私はドリームサポーターとして、そして同じ日本人として、これからもスペシャルオリンピックス日本を応援し続けます!

スペシャルオリンピックス
アンバサダー

キム・ヨナ氏が大会アンバサダーとして大会を盛り上げ、閉会式ではミシェル・クワン氏とSOアスリートとアイスショーを行いました。また、スペシャルオリンピックス世界大会には、オリンピックメダリストや国際的に有名なスポーツ選手、著名人など様々な方が参加され、アスリートとスポーツを通じてインクルージョンのメッセージを発信します。

キム・ヨナ氏
ミシェル・ウィング・クワン氏
ディケンベ・ムトンボ氏
アポロ・アントン・オーノ氏
ヤオ・ミン氏
チャン・ツイイー氏 など



アウンサンスーチー氏

開会式にて「SOを通じて障害者に平等な機会が与えられるようになってほしい」と挨拶し、大会中には知的障害者の権利向上を訴える「平昌宣言」が採択されました。



大会期間中の選手団生活 大会期間中のアスリートの生活を、ある1日をご紹介します。

ショートトラックスピードスケート 遠藤 進 (SON・福島)

5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
	5:30 起床	6:20 朝食	7:30 宿舍 出発	7:30 準備運動、 公式練習	競技開始		応援				表彰式		帰宿	夕食	自由時間		就寝

5:30 起床

公式練習が8時開始なので、朝一番のシャトルバスに乗るため毎日この時間に起きました。初めは大変でしたが、徐々に慣れてきました。

7:30 準備運動、公式練習

公式練習は10分間と短いので、時間前にランニング、体操、ダッシュをして十分に体を温めます。



9:00 競技開始

レースの順番が回ってくるまで、ヒートボックスで待機し、海外のアスリートと話したり、気持ちを整えます。レースはたくさんの方がいて緊張しましたが、応援の声が聞こえたので頑張れました。



19:00 夕食

宿舍が同じフィギュアスケートチームの人たちと一緒に食事し、プルコギやキムチなどの韓国料理やハンバーグなど毎日おいしい料理を食べて、次の日の体力をつけました。



感想 朝起きてから寝るまでチームメイトと一緒に、皆と話をしたり笑ったりして毎日楽しかったです。チームメイトがレースのときは皆と一緒に応援して、僕がレースのときは皆が応援してくれました。世界大会では金メダルがとれ、またチームメイトと楽しく過ごすことができ、僕にとって最高の時間でした。

アルペンスキー 岡野 滯 (SON・北海道)

5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
起床	朝食	7:30 宿舍出発	8:30 滑走準備	競技開始			表彰式						17:30 帰宿	18:15 夕食	自由時間		就寝

5:00 起床

毎日朝5時に起きて眠かったけど、試合当日は緊張のためか眠気を感じなかった。朝食はフルーツなど軽めのものを食べて会場に移動しました。

10:00 競技開始

本番の前に緊張していたら、友達が「大丈夫、落ち着いて滑ろう」って声をかけてくれたので、頑張って滑りました。大回転(ジャイアントスラロム)で金メダルをとって嬉しかったです。



12:00 表彰式

スペシャルオリンピックスは参加したすべての種目で表彰台に立ち、たくさんの人から祝福されます。特に1位になって金メダルをとったときはすごく嬉しかったです。



19:00 自由時間

次の日の準備をしてから、女子のアスリートで集まって女子会をしたり、遊んだり、友達と日記を書いたりして楽しい時間でした。



感想 アルペンスキーは15人と人数が多く、最初は集団生活は大変でしたが、だんだんと仲良くなって、皆といえる時間が楽しくなりました。食事するときも移動するときもいつもみんなと一緒に、兄弟がたくさんできた感じがした。レースのときも皆に応援してもらい、金メダルをとったときも皆が喜んでくれて、とても嬉しかったです。大切な友達、素敵な経験ができました。

日本選手団選考から世界大会までの流れ 世界大会にいたるまでの道のりを振り返ってご紹介します。

2012年

- 2月10日～12日 2012年第5回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・福島
- 4月28日 2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ビョンチャン SO日本選手団選考委員会
- 7月15日～16日 コーチミーティング(代々木オリンピックセンター)
- 8月4日～5日 オリエンテーション(代々木オリンピックセンター)
- 9月15日～17日 合同合宿(代々木オリンピックセンター)
- 11月23日～25日 競技別合宿(氷上競技:ビッグボックス東大和スケートセンター、新横浜スケートセンター、フロアホッケー:代々木オリンピックセンター)
- 12月22日～24日 競技別合宿(氷上競技:名寄ピヤシリスキー場、氷上競技:やまびこスケートの森 アイスアリーナ、フロアホッケー:代々木オリンピックセンター)

2013年

- 1月4日～6日 競技別合宿(氷上競技:白馬47、白馬岩岳スノーフィールド)
- 1月12日～13日 コーチミーティング(代々木オリンピックセンター)
- 1月26日 日本選手団結団式⇒出発
- 1月26日～29日 ホスタウンプログラム
- 1月29日 2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ビョンチャン 開会式
- 1月30日～2月5日 競技/各種プログラム
- 2月5日 2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ビョンチャン 閉会式
- 2月6日 解団式・帰国

「スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ピョンチャン」 スペシャルオリンピックス日本選手団 結団式



世界大会開催地ピョンチャンに出発する当日1月26日(土)に羽田空港第1旅客ターミナル ギャラクシーホールにて「2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ピョンチャン 日本選手団結団式」を開催いたしました。84名の日本選手団が一同に会し、有森団長、代表アスリート、代表コーチが力強く決意表明し、ピョンチャンでの健闘を誓いました。司会にはNHKアナウンサー藤井彩子様のご協力をいただき、ご来賓の厚生労働省社会・援護局障

害保健福祉部・企画課自立支援振興室長の君島淳二様をはじめ、参議院議員・ロンドンオリンピック日本選手団副団長の橋本聖子様、公益財団法人日本オリンピック委員会専務理事の市原則之様、公益財団法人日本障害者スポーツ協会指導部長の中森邦男様、株式会社ファーストリテイリング常勤監査役の田中明様からご挨拶をいただきました。また、応援に駆けつけてくださったスペシャルオリンピックス日本ドリームサポーターで、ミスユニバー

ス2007森理世様、ロンドンオリンピック女子ウエイトリフティング銀メダリスト三宅宏実様、メキシコシティオリンピック重量挙げフェザー級銅メダリスト三宅義行様からは、選手団への激励のメッセージをいただきました。会場では、支援企業・団体の皆様や、日頃よりスペシャルオリンピックスの活動を応援して下さっている皆様が、日本選手団に熱いエールを送って下さいました。

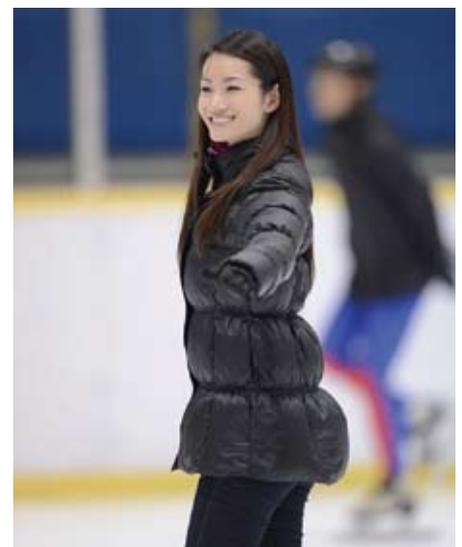
- 名称……………2013年スペシャルオリンピックス
冬季世界大会・ピョンチャン 日本選手団結団式
- 開催日時…2013年1月26日(土) 11:00～12:00
- 会場……………羽田空港 第1旅客ターミナル6階 ギャラクシーホール
- 登壇者……………有森裕子 日本選手団団長(スペシャルオリンピックス日本 理事長)
大和田誠 日本選手団副団長(スペシャルオリンピックス日本 理事)
日本選手団 84名
- 司会者……………藤井彩子 様(NHKアナウンサー)
- 来賓……………君島淳二 様(厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部・企画課 自立支援振興室長)
橋本聖子 様(参議院議員 ロンドンオリンピック日本選手団副団長)
市原則之 様(公益財団法人日本オリンピック委員会 専務理事)
中森邦男 様(公益財団法人日本障害者スポーツ協会 指導部長)
森 理世 様(スペシャルオリンピックス日本ドリームサポーター ミスユニバーズ2007)
三宅宏実 様(ロンドンオリンピック女子ウエイトリフティング銀メダリスト)
三宅義行 様(メキシコシティオリンピック重量挙げフェザー級銅メダリスト)
田中 明 様(株式会社ファーストリテイリング 常勤監査役)
- 主催……………公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本



荒川静香さんの日本選手団激励特別レッスン

11月24日(土)、日本選手団氷上競技別合宿の際、かねてよりSOの応援をしてくださっているスペシャルオリンピックス日本ドリームサポーターの荒川静香さんによる激励と特別レッスンが行われました。この特別レッスンでは、フィギュアスケートとショートトラックスピードスケートのアスリートのスケーティングを荒川さんが見て、的確なアドバイスをしてくださいました。アスリート達は憧れの荒川さんの登場に初めは緊張していましたが、荒川さんの優しい声かけによってすぐにいつもの活き活きとした表

情になりました。レッスン終了後には、世界大会に臨むアスリートたちの勇気になるようにと、荒川さん自らがイナバウアーやスピンなど素晴らしい演技を披露してくださいました。アスリートたちは荒川さんのメッセージが込められた演技から世界に挑戦する気持ちを強く持つことができました。また最後に、「世界の舞台に立つとき、皆さんを応援し支えて下さっている方々に感謝し、堂々と自信を持って演技してください」とメッセージもいただきました。



2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ピョンチャン Special Thanks



株式会社ユニクロ

開閉会式等で日本選手団が着用した式典用ユニフォームをご提供いただきました。



アディダス ジャパン株式会社

日本選手団共通ユニフォームに加え、フロアホッケーユニフォームや雪上競技、氷上競技のアンダーシャツをご提供いただきました。



Yahoo!JAPANは
スペシャルオリンピックス日本
を応援しています

ヤフー株式会社

世界大会・ピョンチャンについてYahoo! Japan トップページなどの広告欄でPRしていただきました。



サイエント株式会社

大会情報や選手団インタビューなど日本選手団を紹介する「世界大会応援サイト」を開設いただきました。



ソフトバンクモバイル株式会社 株式会社ウィルコム

大会期間中の日本選手団スタッフの連絡手段としてiPadやPHSなどのモバイル端末をご提供いただきました。

日本選手団 競技ユニフォーム

株式会社ゴールドウイン
株式会社アシックス
ミヤコ・スポーツ株式会社
株式会社ミズノ

日本選手団 写真・映像記録

株式会社フォート・キシモト
有限会社ブルーフィールド

世界大会に出場するにあたり、様々な企業・団体・個人の皆様にご協力いただきました。

2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会の広報活動

大会アンバサダー キム・ヨナ氏が SOをきっかけに 再び競技の世界へ

バンクーバーオリンピックで金メダルを獲得し、一度引退を表明したキム・ヨナ氏が、今大会アンバサダーとなり、一人ひとりが自分自身とひたむきに向き合い、高みを目指すスペシャルオリンピックスのアスリートを見て、再びオリンピックを目指すことを決意。そのキム・ヨナ氏のインタビューを NHK おはよう日本で放送。

キム・ヨナ氏：「アスリートたちが自分に限界を作らず、新しい目標を立て前進する姿に感動しました。スペシャルオリンピックスのアスリートが純粋にスポーツに向き合っている姿を見て、私もプレッシャーにばかりとらわれず、アスリートたちと同じように競技を楽しみたいと思うようになりました」



広報活動・掲載記事・放送など

テレビ報道

2月7日(木)
NHK / NHKニュース
おはよう日本

大会応援サイト

12月27日から展開
アクセス数:177,172
(12月27日~2月12日)

USTREAM

映像ライブ配信
配信数112回、
合計視聴回数:9,813回

Facebook

世界大会や選手団の
写真を掲載
Facebookいいね!数:1,236
(2/7時点)

新聞掲載

203件 56社
(4月13日時点)

地区写真展

世界大会PR写真展を開催
10地区



Kwandong University

Gangneung Ice Rink



2013年スペシャルオリンピックス

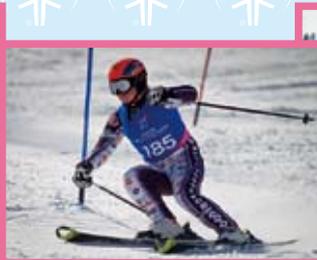
Together

世界111の国と地域から3,000名以上のアスリ



Yongpyong Dome





冬季世界大会・ピョンチャン

We Can!

一トが集結「喜び」と「感動」に包まれた8日間!

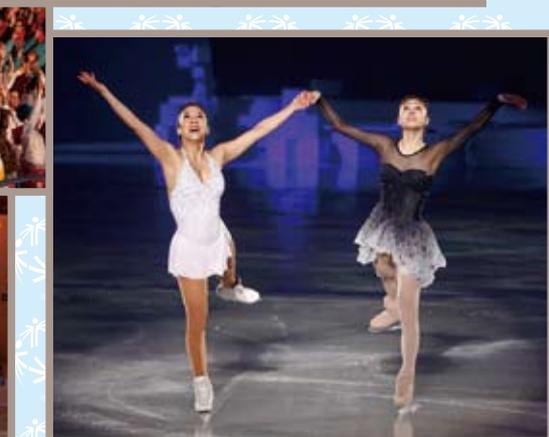
Pyeongchang



Gangneung

Yongpyong Resort

Alpencia Resort



公益財団法人スペシャルオリンピックス日本
寄附・協賛・支援企業団体一覧



■ ナショナルパートナー

(株)ユニクロ、ヤフー(株)、ソニー生命保険(株)、アディダス ジャパン(株)、(株)ウィルコム、富士ゼロックス(株)

■ ウェブサイトパートナー

サイエントグループ

■ プレミアスポンサー

日本ケンタッキー・フライド・チキン(株)、日本コカ・コーラ(株)

■ マーケティングパートナー

(株)インヴェル・ジャパン

■ プロモーションパートナー

(株)AOI Pro.

■ フレンドシップスポンサー

(社)日本フードサービス協会、(株)NTTドコモ、東京海上日動火災保険(株)、(株)三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行(株)、明治安田生命保険相互会社、(株)スリーボンド、(株)三井住友銀行、三井不動産(株)、三井物産(株)、日本生命保険相互会社、リシュモンジャパン(株)、SCSK(株)、医薬品産業労働組合連盟、ドイツ銀行グループ、(株)セイブシステムリンク、ニホンモニター(株)

■ マーケティング支援企業

ポケットカード(株)、(株)オニザキコーポレーション、太陽化学(株)

■ 助成金

スペシャルオリンピックス冬季世界大会長野記念資金、(財)東京メソニック協会、全国生活協同組合連合会、全国労働者共済生活協同組合連合会、スペシャルオリンピックス国際本部、(独)日本スポーツ振興センター、(財)森村豊明会

■ 寄付・協賛

東京マラソンチャリティつなぐ、ICAP東証証券(株)、(財)三井報恩会、末日聖徒イエス・キリスト教会、大阪マラソン組織委員会、トヨタ輸送(株)、トヨタ協働会、ピーアークホールディングス(株)、(株)CHINTAI、エーザイユニオン、東京海上フイルハモニクオークステラ部、AGCセラミックス(株)、(社)日本ボウリング場協会、(株)ブリヂストン、エムサービス(株)、MDRT日本生命分会、MDRT日本会 MDRT Foundation-Japan、MDRT日本会事務所、日本オーチスエレベータ(株)、(株)ソニックジャパン、共同カイトック(株)、グンゼクラブアース倶楽部、(株)三菱東京UFJ銀行社会貢献基金、大同生命社会貢献の会、日本オラル(株)有志の会、UIゼンセン同盟、学習院同窓会 校友会、富士ゼロックス埼玉端数倶楽部、富士ゼロックス埼玉(株)、明治神宮崇徳会、(株)スマイルズ、プラザーズ(株)、スペシャルオリンピックス支援コンサート実行委員会、イービーエスティーリングリソースジャパン(株)、(株)S.D.B.B.、(株)トール、KDDI(株)+αプロジェクト、富士ゼロックス チャリティゴルフ大会、(株)スポーツニッポン新聞社、UBS銀行チャリティゴルフ、UBS証券会社、ロード製薬 カルガモ基金、軽井沢チャリティコンサート実行委員会、大和ハウス工業(株)、J.P.モルガン、(株)アップフロントワークス、(特活)チャリティプラットフォーム、(財)ジャストギビングジャパン、ソフトバンクモバイル(株)、(株)ライフ、(株)マッシー、(株)ファーストコレクション、JR東労組、(株)青山サロン、JAIFA東京住友分会、三和グループ社会貢献倶楽部、One by One こども基金、トリアスロンボーイズ有志一同、東京都遊技協同組合青年部会、St.Andrews Society、大阪南ロータリークラブ、東京ウイメンズクラブ、東京ビジネスネットワーク、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、(特活)千葉 chi-raku、サイバーソリューションズ(株)、大阪ブラムライオンズクラブ、JAIFAオーソニー会、東京ウイメンズクラブ、八王子東京パイロットクラブ、シチズンホールディングス(株)、(株)小林事務所、(有)難波アソシエイツ、川崎市立看護学校PTA、社会福祉法人つくばねおおばん、日本聖公会 九州教区女性の会、(株)キャンディコミュニケーションズ、東急スポーツオアシス江坂店カッパーズ、東急スポーツオアシス住吉店クラブ酔水、ディー・イチ・エル・ジャパン(株)、(株)ソーシャルバイス・カンパニー、ITC日本リジョーンカウンセルNo.2、三菱UFJ信託株式会社タナタナフレnds会、(株)あおぞら銀行、富士ゼロックス端数倶楽部、(株)NTTデータ・ール、鈴鹿蒲鉾本店 鈴和会、スペシャルオリンピックス支援のためのチャリティコンサート実行委員会、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)メディカルカンパニー、シーズカフ、神戸学院高等学校75回卒業生一同(株)東急スポーツオアシス、海外酒販(株)、(株)キューオーエル、インフリンク(株)、アメリカン・エキスプレス・インターナショナル、Inc.日本支社、(株)セイブシステムGOLF INVITATIONAL、「スペシャルオリンピックス日本XPASS THE BATON」チャリティマーケット、ソニー生命保険(株)大阪中央LPC第5支社、(有)ムース、高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン実行委員会、キャロウェイゴルフ(株)、ロバートウォルターズジャパン(株)、(株)グッドヒル、Triathlon Boys&Girls、(株)アイデアインターナショナル、En女医会、東京都立大田桜台高校生徒会、(株)ゴールドウイン、(株)アシックス、ミスノ(株)、千葉県騎手会、(株)ビジネスパートナーズ、森育子ダンススタジオ、I.R.M.アカデミー

■ SOメイ

(株)損保ジャパン企業保険サービス、(株)キャリアビューロー、(株)ワークスアプリケーションズ、三井婦子、(株)スワロスキー、テラーメイドゴルフ(株)、(医)慈懸会、(株)ルプロジェ、(株)オオバ工務店、富士ゼロックス福島(株)、富士ゼロックス福島端数倶楽部、(有)オアシス古泉、大同生命(株)郡山支社、福島トヨペット(株)、(有)KOIZUMI、お祭り広場 原沢衆夫、桐生ガス(株)、群馬トヨペット(株)、三日月総業(株)、神奈川県ボウリング場協会、関東化成工業(株)、(株)トール、富士ゼロックス(株)、富士ゼロックス端数倶楽部、セイコーエプソン(株)、富士ゼロックス長野(株)、(株)ティアマリア、JA長野県グループ、長野大学、ホク(株)、丸美食品工業(株)、(株)サーキットデザイン、(社)新潟県産業廃棄物協会、リントラ(株)、(株)加藤自動車相談所、(公財)徳島県福祉基金、徳島青年会議所、阿波総合開発(株)、斉藤弘子、徳島新聞社、ヒューマンボランティア協会、UIゼンセン同盟、幸の太鼓を響かせてin吉野川市、ハッピーエコプラザ、新神戸ライオンズクラブ、尼崎Pを支える会、芦屋平ライオンズクラブ、伊丹名野ライオンズクラブ、神戸南ライオンズクラブ

■ 協力

(株)アイデアレント(篠塚正典)、(株)マック、(株)RIGHTS、(株)ライズメディア、(株)ジャパ・通信社、(株)フォートキエム、(有)ブルーフィールド、(株)オズマビジュアル、(株)トライ・アングル企画、ルーデンス(田川正一)、(株)ディレクターズシステム、志堂晃一、山下泰裕、王貞治、原辰徳、松浦亜弥、森理生、萩原美樹子、堀尾正明、森島寛晃、小林研一郎、加藤良三、為末大、中田英寿、井上康生、国枝慎吾、宇津木妙子、小谷実可子、杉山愛、喜多ゆかり、荒川静香、SHIHO、中野貴、有働由美子、上野由岐子、柴田亜衣、水島寿思、森田智己、久保田智子、西田敏行、名取裕子、和合亮一、アポロ・アントン・オーノ、北澤豪、吉永小百合、町亞聖、羽岡将一、唐橋ユミ、小島智子、金哲彦、萩原次晴、山本ゆづり、三宅宏美、三宅義行、藤井彩子、小糸恵子、中野裕司、(財)日本体育協会、日本スポーツマンクラブ、メディアセンス(株)、(株)ジェイブレイン、デルタ航空、I&OTHERS、クーパー・コーチング・ジャパン、富士ゼロックス東京(株)、セイコーエプソン(株)松本事業所、(株)セールスフォース・ドットコム、第一貨物(株)、エフピコ物流(株)、(株)富士通東システムズ、(有)サポートプランニング、日本電波塔(株)、通天閣観光(株)、三越銀座店、(株)ステディ スタディ、Sun Design Group、クロエ青山店、(株)WILD FLOWER TOKYO、(株)エイサー・エス、マッキンゼー・アンド・カンパニー・インク・ジャパン、(株)伊東屋、セイコーホールディングス(株)、セイコーロック(株)、(株)ワンウェイ、(株)テイクアウト・グー・ニーズ、本栖湖ファンダレイジングマラソン実行委員会、NPO法人STAR POWER、SCSK社会貢献活動クラブ Earth One、日本ユニシス(株)、日本ユニシスグループ社会貢献クラブ「ユニハート」、MARON BOUILLIE、SONサポーター丸の内女子会、キャンマーケティングジャパン(株)、城山電子(株)、(株)JAMMY、(株)ラナ、セビオ(株)、あさかホスピタルグループ、日本バルーン協会、(株)ティーズフェューチャー、(株)ソフトワン、エルラン実行委員会、日清ファルマ(株)、(株)知足堂、(株)インパトレディング、(株)明治

■ 個人寄付

一家明成、坂本精志、村上雅則、細川佳代子、三井婦子、新宅正明、坂本哲男、藤本和延、荒島俊之、津川清、庄恵美子、須田道雄、宮崎恭一、横浜信一、篠原浩一郎、川上優子、小玉敏子、岡田浩子、塚田こうじ、米澤善美子、小山内清孝、竹内清文、宮寺、三浦勝、斎藤隆二、斎藤猛雄、師岡文男、酒井桂生、中根健治、近藤和子、佐野貴昭、鈴木千代子、沖かんな子、宇津木妙子、土井繁生、小林隆久、平井映子、福田光伸、中村哲也、玉城裕士、小西淑人、加藤幸太郎、岡本元美、岩崎真揮、立本宗一、藤井浩一、大河原敏、大河原愛子、チャールズナンシュ、高石好志、渡部知子、伊藤泰二、陣野社太郎、海野達也、宮直史、西出陽子、山中真佐子、松山幸子、益田直美、福元卓之、ロイファウチ、諏訪俊二、南正美、加藤武文、重岡隆夫、田所健作、藤田治、宮内和廣、鈴木久和、岩地馨、小林益久、真田悦子、吉田秀夫、山口計子、横川浩、SON主催第1回エルランご参加の皆様、SON主催エールワーク クリスタルナイトご参加の皆様、SON主催第2回エルランご参加の皆様、SON主催中野裕弓さんチャリティオークションご参加の皆様、エール募金ご協力の皆様

2012年を振り返り ～共に生き、共に育つ社会をめざし、次のステージへ～

スペシャルオリンピックスは、知的障害のある人たちに継続的なスポーツトレーニングとその発表の場である競技会の提供を使命とし、活動を通して彼らの自立と社会参加を促進し、生活の質を豊かにすることを目的とする活動です。創設者である故ユニス・ケネディ・シュライバーは約40年前にスポーツを通じて知的障害者の能力や尊厳を社会に証明し、一人の市民として社会に参加し、幸福な生活が送れることを願い、スペシャルオリンピックスを始めました。スペシャルオリンピックスがアスリートと共に発信してきたメッセージは、障害の有無に関わらず、互いの違いを理解し尊重し認め合うことで、共に生き、共に育つ社会の実現を目指しながら、今日では世界170カ国以上に広がり、400万人のアスリートと100万人のボランティアが参加する国際的なムーブメントに発展し、日本でも1992年に熊本で活動を開始してから、現在では全国に活動の輪が広がり、7,000人以上の知的障害のあるアスリートが活動しています。

昨年は、東日本大震災後から1年を待たずに、福島県で冬季ナショナルゲームを開催し成功裏に終えることができました。全国規模の知的障害者の競技大会開催という目的のみならず、スポーツを通じた被災地の復興支援という側面を



持つ意義ある大会となりました。

今大会を経て選ばれたアスリートは、本年韓国で開催されたスペシャルオリンピックス冬季世界大会にて大きな成果を上げることができました。これも、ひとえにアスリート、ファミリー、ボランティアの皆様と継続的な活動を支える地区組織、そしてスペシャルオリンピックス活動を支援育んでくださっている多くの企業、団体、個人の皆様方の深いご理解とご尽力の賜物と心から感謝申し上げます。

スペシャルオリンピックス日本は、来年、設立20周年を迎えますが、昨年、公益財団法人の認定を受け、組織として新たな一歩を踏み出すことができました。今後も、さらに次のステージを目指し積極的に活動を行っていく所存ですので、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本
理事長

有森裕子

年間トピックス

ヤングアスリート™プログラム

ヤングアスリート™プログラムは、2歳から7歳の知的障害のある子ども達のために開発された“遊び”のプログラムです。

スポーツの基礎となるような歩き方、走り方、ボールの投げ方などを楽しみながら学び、心身の発達と社会性を育むことが、このプログラムの目的です。さらに、若いファミリー達のネットワーク作りにも一役買っています。

SO日本では、2012年夏に神奈川県でトレーナーを養成する研修会とデモンストレーションを開きました。参加者からは、子どもと一緒に遊べるのが嬉しい、いつかは一緒にスポーツをしたいという感想を戴きました。現在は4地区組織で実施されており、2013年はさらに広がる予定です。



設立地区

スペシャルオリンピックス日本・群馬

2013年3月10日設立

3月10日に認証を受け、同29日に認証式を開催しました。2004年「500万人トーチラン」から活動が始まり、苦節8年半を経て設立でき、皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。更なる発展を目指し、アスリート達の笑顔とインクルージョン社会実現のために活動の輪を広げていきます。



スペシャルオリンピックス日本・岐阜

2013年3月22日設立

設立総会並びに認証式が3月22日に岐阜会館で行われ、有森裕子理事長より認証状とSON・岐阜旗が高橋会長に手渡されました。アスリート、ファミリー、役員、そして駆けつけていただいた関係者約80名が、これまで支援くださった皆様に感謝しSON・岐阜のスタートを祝福しました。



第2回エールランin国立競技場

10月29日(月)に有森裕子理事長と一緒に走るチャリティ・ランイベント「第2回エールランin国立競技場」を開催しました。当日は417名のランナー、そして実行委員会を含めた98名のボランティアの方にご参加いただきました。

プログラム第1部では、有森理事長、金哲彦さんのランニングレクチャー、森理世さんのウォーキングレクチャーを行い、第2部では4人1チームで8kmを走る駅伝を行いました。今回、司会を務めていただいた荻原次晴さん、そしてスポーツDJの山本ゆうじさんがランナーの方々にエールを送りイベントを盛り上げてくださいました。

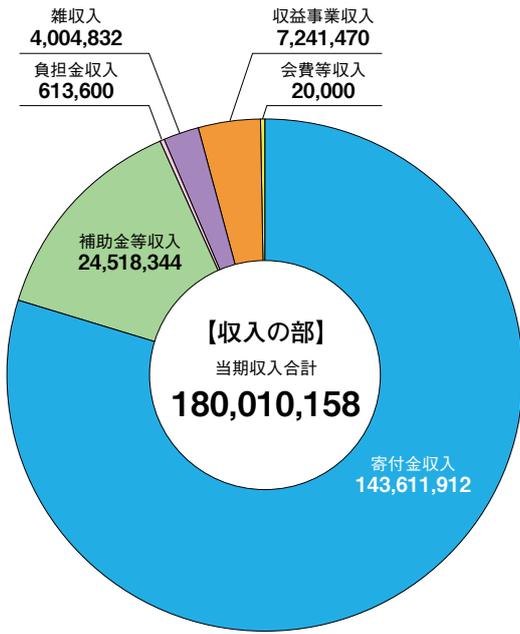


開催日時	2012年10月29日(月) 19:30
開催場所	国立競技場
プログラム	第1部 ランニング/ウォーキングレクチャー 第2部 駅伝(8km/4人1チーム)
チャリティ	2,110,645円

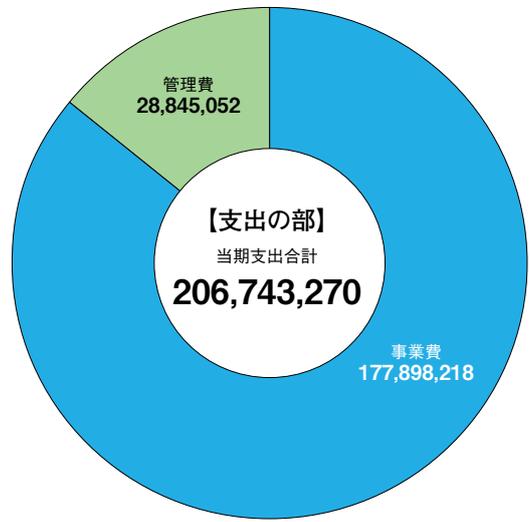
決算概要

2012年1月1日～2012年12月31日

(単位:円)



当期経常増減額
▲ 26,733,112



1. ここに掲載している計数は、SO日本の2012年通年の活動をより良くご理解いただくために、NPO法人期間(1～3月)と公益財団法人期間(4月～12月)の事業収支を通算して表示しています。
2. 公益財団法人SO日本(単体)の監査済み正式決算報告書はHPに掲載してあります。

2012年活動実績

アスリート数……………7,334人
ボランティア数 ……13,629人
地区数 ……47地区(内9地区 設立準備委員会)

コーチクリニック実施回数 ……75回/36地区
コーチクリニック受講者数 ……2,136人
企業団体寄付 ……226社・団体(延べ)
個人寄付 ……786人(エール募金含延べ)

今後の大会開催予定

2014年
第6回スペシャルオリンピックス日本
夏季ナショナルゲーム・福岡

日程……………2014年11月1日(土)～3日(月・祝)
開催地……………福岡県(福岡市、北九州市、宗像市、古賀市、粕屋町)
選手団……………1,500名(アスリート/1,000名、コーチ/500名)
大会役員・審判 ……800名
ボランティア ……4,000名

2015年
スペシャルオリンピックス
夏季世界大会・ロサンゼルス

日程……………2015年7月24日～8月2日
開催地……………アメリカ合衆国 ロサンゼルス
参加予定…170の国と地域からアスリート7,000名



エール募金

知的障害のあるアスリートにエールを送りアスリートとお揃いのミサンガをつけよう!



エール募金

オリジナル
シューレース

SOロゴの入ったシューレース(靴ひも)を着けてSOの輪を広げよう!



公式Facebook

日本選手団アスリートの勇姿や最新情報をご覧いただけます。



企画マーケティングチームブログ

企画マーケティングチームが行っているイベントの舞台裏やご協力者を紹介しています。



スペシャルオリンピックスの使命

スペシャルオリンピックスの使命は、知的障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じたさまざまなスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気をふるい、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供することです。

スペシャルオリンピックス日本のビジョン

スペシャルオリンピックスは質の高いスポーツトレーニングと競技会を通じて、知的障害のある人たちと触れ合うすべての人々が感動を共有し、各地区に根付いた全国的な運動となることを目指します。

スペシャルオリンピックス日本 検索